

第 39 回日本神経学会神経内科専門医試験日程について

下記のとおり、2013 年度 第 39 回日本神経学会神経内科専門医試験を行います。

第一次試験（筆記試験）

1. 日時：2013（平成 25）年 6 月 15 日（土曜日）、9：30～17：30 予定
2. 場所：東京大学駒場キャンパス 11 号館 1 階
3. 受験料：30,000 円
4. 受験申請書類受付期間：2013（平成 25）年 2 月 18 日（月曜日）～3 月 22 日（金曜日）消印有効
5. 合否通知：試験終了後 10 日以内に速達親展郵便にて通知

第二次試験（口頭試験）

1. 日時：2013（平成 25）年 7 月 13 日（土曜日）、受験者個別に通知
2. 場所：都市センターホテル
3. 受験料：20,000 円
4. 合否通知：試験終了後 10 日以内に速達親展郵便にて通知
5. 専門医登録料（合格者）：10,000 円

—第二次試験のみ受験される方—

2012（平成 24）年度の第 38 回、2011（平成 23）年度の第 37 回、2010（平成 22）年度の第 36 回、2009（平成 21）年度の第 35 回、2008（平成 20）年度の第 34 回試験で、第一次試験は合格、第二次試験が不合格となった方で、「認定内科医」を取得している方は、その後 5 年間で、3 回まで第一次試験が免除されます。

対象の方へは学会事務局より申請書類一式を送付致します。

【注意事項】

2011（平成 23）年度 第 37 回専門医試験より、受験申請時に、神経内科研修の最後に所属した施設の研修施設指導管理責任者（指導医）による「研修修了証明書」、および自己申告による「ミニマムリクアイアメント達成状況表」の提出が必須となっています。

【受験申込書類（“第 39 回専門医試験の手引き”等）の請求】

会員番号・ご所属・氏名を明記し、郵送料として 600 円分の切手を同封の上、「日本神経学会事務局 第 39 回専門医試験申し込み」宛て、〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-21 一丸ビルにご請求ください。2013 年 1 月より順次送付致します。

送付先は学会誌の郵送先となりますので、ご住所変更等がございましたら先生はご注意願います。

※受験資格・申請方法・申請書類などについて、学会 HP の「専門医制度」の「資格試験のお知らせ」にも掲載しておりますので、“第 39 回専門医試験の手引き”と併せてご確認ください。

ご不明な点等ございましたら、神経学会事務局（03-3815-1080）までお問い合わせください。

第 54 回日本神経学会学術大会のお知らせ

第 54 回日本神経学会学術大会
大会長 水澤 英洋

開 催 概 要

1. 学術大会会期：平成 25 年（2013 年）5 月 29 日（水）～6 月 1 日（土）
「神経学 ―新しい時代への挑戦―」をテーマとして、上記日程で開催いたします。例年通り、1 日目に生涯教育セミナー（レクチャー、Hands-on）、専門医育成教育セミナー（旧：卒後教育セミナー）が開催されます。
2. 学術大会会場：東京国際フォーラム
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-5-1
TEL: 03-5221-9000（代）
3. 事前参加登録：平成 25 年（2013 年）1 月初旬予定
※ 事前参加登録はすべてオンラインにより登録を行います。
※ ランチョンセミナー、イブニングセミナーもオンラインによる事前参加登録制とする予定です。
※ 詳細は追ってホームページでご案内いたします。（<http://www.congre.co.jp/neuro54/>）
4. 参加費：事前参加登録費：15,000 円（当日 18,000 円）
学部学生、初期研修医は参加費無料となります。詳細は、ホームページでご案内いたします。
5. 託児所：会期中、会場内に託児所をご用意いたします。お申し込み方法等につきましては、追ってホームページでご案内いたします。
6. エクスカーション：会期中エクスカーションを企画しております。お申し込み方法等につきましては、追ってホームページでご案内いたします。
7. お問い合わせ：
【学術大会本部】
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野
〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
TEL: 03-5803-5234 FAX: 03-5803-0169
【学術大会運営事務局】
株式会社コングレ
〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 6 階
TEL: 03-5216-5318 FAX: 03-5216-5552
E-mail: neuro54@congre.co.jp
8. 口演による発表方法
 - (1) PC プロジェクターが使用可能です。
 - (2) ビデオプロジェクターの使用はできませんが、PC からの動画投影は可能です。
 - (3) 発表データはメディア（USB メモリーまたは CD-R）での持ち込みとなります。ただし動画がある場合にはご自身の PC をご持参ください。
 - (4) 研究倫理諸規定および個人情報保護の諸規定に遵守してご発表ください。
 - (5) 利益相反の開示についてのスライドをご提示いただきます。詳しくは日本神経学会ホームページの「学会概要」内、「定款・規則」をご参照ください。
 - (6) 学術大会の国際化のため、口演スライドはできるだけ英語で作成するようお願いいたします。
9. ポスター形式による発表方法
 - (1) 展示パネルは縦 210cm×横 90cm の予定です。パネル上部の演題番号のみ、学術大会事務局で用意いたします。演題・所属・氏名（簡単に）は各自で 20cm×70cm に横書きしてください。
 - (2) ポスターは要旨・目的・方法・結果・考察の順に大きくわかりやすく書いてください。文章は 2～3 m 離れたところからでも見えるような大きなポイント文字を使い、図式は一辺が 20cm 以上の大きさとタイトル・簡単な説明をつけてください。
 - (3) パネル自体に直接文字や図表を書いたり、パネルに糊づけしたりはできません。

- (4) ポスターをパネルに貼りつけるための画鋏は会場に用意いたします。
- (5) ポスター発表のスケジュール等は演題採用通知を発表後にご案内させていただきます。
- (6) 研究倫理規定および個人情報保護の諸規定を順守してご発表ください。
- (7) 利益相反の開示についての内容を記載してください。詳しくは日本神経学会のホームページ「学会概要」内、「定款・規則」をご参照ください。
- (8) 学術大会の国際化のため、ポスターはできるだけ英語で作成するようお願いいたします。

10. 日本神経学会 学術大会運営委員 (50 音順・敬称略)

梶 龍児	吉良 潤一	鈴木 則宏	祖父江 元	辻 省次
西澤 正豊	水澤 英洋	山本 光利		

11. 第 54 回日本神経学会学術大会 年次学術大会学術委員 (50 音順・敬称略)

青木 正志	赤松 直樹	荒木 信夫	飯塚 高浩	五十嵐博中
池田 昭夫	石合 純夫	石川 欽也	伊東 大介	井上 治久
宇川 義一	内原 俊記	大八木保政	荻野美恵子	小野寺 理
勝野 雅央	亀井 聡	河村 満	神田 隆	楠 進
國本 雅也	桑原 聡	幸原 伸夫	後藤 順	榊原 隆次
佐古田三郎	清水 潤	清水 優子	下濱 俊	園生 雅弘
高橋 一司	武田 篤	武田 克彦	棚橋 紀夫	玉岡 晃
戸田 達史	富本 秀和	永井 博子	中川 正法	中瀬 浩史
西野 一三	西山 和利	野元 正弘	服部 信孝	林 明人
平田 幸一	福永 秀敏	福山 秀直	藤原 一男	松浦 徹
松尾 秀徳	松本 昌泰	村山 繁雄	望月 秀樹	本村 政勝
山田 正仁	山村 隆	山脇 正永	横田 隆徳	

各 種 企 画 の お 知 ら せ

1. 大会長講演

水澤 英洋 (東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野)

2. 特別講演：2012 年学会賞・植林賞受賞者招待講演

2012 年学会賞：岩田 淳 (東京大学大学院医学系研究科分子脳病態科学)

2012 年植林賞：武田 篤 (東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野)

3. 教育講演，全日神経内科教育コース，チーム医療関連コース (予定)

4. ホットトピックス (診療ガイドライン，先端研究：予定)

5. Neuroscience frontier symposium 1, Neuroscience frontier symposium 2

6. East Asian Neurology Associated Integrated Session (Ataxia)

7. 企画シンポジウム (予定)

- 1) 病態仮説に基づくアルツハイマー病治療法開発の現状と展望
- 2) 血管性認知症と周辺病態：Vascular cognitive impairment (VCI) をめぐって
- 3) 神経心理学の進歩：たいせつなことをわかりやすく
- 4) 心房細動に伴う心原性脳塞栓症の予防
- 5) 脳梗塞急性期治療の最前線
- 6) てんかん診療における焦点検索方法の進歩とてんかん外科 (日本てんかん学会との共催)
- 7) 群発頭痛の病態解明と治療
- 8) 難治性慢性片頭痛の病態解明と治療
- 9) Recent progress in multiple system atrophy
- 10) パーキンソン病の初期診断
- 11) パーキンソン病の非薬物療法とエビデンス
- 12) Non-coding repeat expansion disorders
- 13) 不随意運動の病態生理
- 14) 中枢神経系感染症の遺伝子診断の進歩 (神経感染症学会との共催)

- 15) Pathogenesis and treatment of NMO
- 16) MG 治療の現状を知り、今後を考える
- 17) GBS/CIDP をめぐる最新の話
- 18) 免疫性神経疾患の新しい展開：脳から自律神経障害まで
- 19) 運動ニューロン疾患の遺伝学：update
- 20) 末梢神経の再生医学：難治性末梢神経疾患治療の新たな水平線
- 21) 筋疾患研究最前線
- 22) パーキンソン病（PD）の自律神経障害～全身とのクロストーク
- 23) Gene Silencing Therapy for neurological diseases
- 24) 神経再生医療とリハビリテーション
- 25) 脳卒中のリハビリ：回復期 6 か月の壁をこわす新しい治療戦略
- 26) iPS 細胞研究の現状と展望
- 27) 神経疾患における MR 撮像法の最先端
- 28) 神経筋疾患の超音波診断
- 29) Structural template for neurodegeneration. From lesion to brain
- 30) 孤発性疾患における遺伝子異常の探索法
- 31) 今後の難病医療
- 32) 神経内科教育の Continuum
- 33) 今後の医療を支えるために～女性医師のキャリアを持続させるためには？～
- 34) 救急場面における神経内科医のプレゼンス（日本神経救急学会との共催）
- 35) より良い在宅医療をめざして
- 36) 日本神経学会英文誌シンポジウム
- 37) 日本神経学会編纂ガイドラインの現況と将来展望
- 38) Late breaking symposium
8. 公募シンポジウム（予定）
9. 脳梗塞 rt-PA 適正使用講習会（予定）
10. 日本神経学会第 10 回生涯教育セミナー「レクチャー」（6 月 1 日（土））
11. 日本神経学会第 10 回生涯教育セミナー「Hands-on」（5 月 29 日（水））
12. 日本神経学会第 1 回専門医育成教育セミナー（旧：卒後教育セミナー）（5 月 29 日（水））
13. 日本神経学会市民講座（6 月 2 日（日））

日本神経学会 議事録

平成 24 年度第 3 回日本神経学会理事会議事要旨

日 時：平成 24 年 7 月 21 日（土） 13：00～16：30

場 所：都市センターホール 601 号会議室

出 席：宇川義一，内山真一郎，梶 龍兒，亀井 聡，吉良潤一，楠 進，佐々木秀直，鈴木則宏，祖父江元，高橋良輔，
辻 省次，中島健二，中野今治，西澤正豊，服部信孝，水澤英洋，峰松一夫，山田正仁，山本光利

欠 席：阿部康二

監 事：葛原茂樹，清水輝夫

（五十音順 敬称略）

陪 席：総務幹事：寺尾安生，事務長：池田義春，事務局職員：満富陽子

議題

- (1) 専門医認定および資格喪失について
- (2) 専門医認定クレジットについて
- (3) 会費未納会員を退会とみなす手続きについて
- (4) 地方会から代表理事への報告について
- (5) 会員名簿を地方会支部に提供することについて
- (6) 各種委員会構成について
 - ①新委員会設置と委員会構成について
 - ②各種委員会委員長について
- (7) 第 53 回学術大会報告について
- (8) 第 54 回学術大会準備状況について
- (9) 役員選出について
 - ① 2013 年度代議員選挙について
 - ②その他
- (10) COI 自己申告書の提出について
- (11) 平成 24 年度財務状況等について
- (12) 各種委員会報告
 - ①診療向上委員会報告
 - ②施設認定委員会報告
 - ③ガイドライン統括委員会報告
 - ④ IT 化推進委員会報告（災害ネットワーク構築の件）
 - ⑤ WCN 招致委員会報告について
 - ⑥生涯教育小委員会報告
 - ⑦教育委員会報告
- (13) 日本脳科学関連学会連合発足の件
- (14) 日本内科学会将来検討ワーキンググループ委員推薦について
- (15) 日本医学会の組織・運営に関する構想についての意見募集について
- (16) その他
 - ①山本理事の提案

（配布資料）

- 資料 1 日本神経学会理事・監事一覧（平成 24 年 7 月 21 日現在）
- 資料 2 専門医認定関係資料
- 資料 3 専門医認定更新について
- 資料 4 会費未納による退会手続き関係資料
- 資料 5 日本神経学会地方会支部から日本神経学会への報告について

- 資料 6 一般社団法人日本神経学会会員の個人情報と本学会地方会支部に提供する場合の取り扱いを定める要項（案）
- 資料 7 日本神経学会各種委員会委員長一覧（平成 24 年 7 月（案））
- 資料 8 日本神経学会各種委員会委員長一覧（平成 24 年 5 月現在）
- 資料 9 専門医認定委員会委員一覧
- 資料 10 日本神経学会キャリア形成促進ワーキンググループ委員一覧
- 資料 11 日本神経学会臨床医部会設置準備委員会委員一覧
- 資料 12 会員制度・倫理綱領策定委員会委員長委員一覧
- 資料 13 第 53 回日本神経学会学術大会 運営の記録
- 資料 14 2013 代議員選出関係資料
- 資料 15 財務状況報告関係資料
- 資料 16 平成 24 年 7 月 21 日日本神経学会理事会診療向上委員会議題
- 資料 17 平成 24 年診療報酬改訂関連通知の一部訂正について
- 資料 18 施設認定委員会からの報告
- 資料 19 IT 化推進委員会関係資料
- 資料 20 WCN 招致委員会報告関係資料
- 資料 21 平成 24 年度第 1 回生涯教育小委員会議事概要
- 資料 22 平成 24 年度第 1 回教育委員会議事概要
- 資料 23 教育委員会および各小委員会委員一覧
- 資料 24 脳科学関連学会連合からのお知らせ
- 資料 25 「一般社団法人 日本医学会の組織、運営に関する構想」について
- 資料 26 将来計画検討ワーキンググループへの委員推薦のお願い
- 資料 27 重症筋無力症診療ガイドライン作成委員会委員一覧

（追加配布資料）

- 追加資料 1 一般社団法人 日本神経学会定款
- 追加資料 2 平成 24 年度第 2 回日本神経学会理事会議事要旨（案）
- 追加資料 3 第 53 回学術大会時 社員総会議事要旨（案）
- 追加資料 4 日本神経学会学術大会運営のあり方に関するまとめ
- 追加資料 5 第 54 回日本神経学会学術大会プログラム（案）
- 追加資料 6 国際対応委員委員会追加資料

○議事に入る前に

1 出席状況確認

水澤代表理事から、出席状況（阿部理事を除く 19 名の理事の出席・監事 2 名出席）を報告し、定足数を満たしている旨報告があった。

2 前回議事要旨

平成 24 年度第 2 回日本神経学会理事会議事要旨（案）、第 53 回学術大会時社員総会議事要旨（案）について修正がある場合は理事会終了までに協議することとなった。

3 理事紹介

水澤代表理事から資料 1 に基づき、今年の選挙で選ばれた新しい理事 6 名が紹介された。新任理事は次のとおりである（五十音順）。

宇川義一教授（福島県立医科大学）、亀井聡教授（日本大学）、楠進教授（近畿大学）、服部信孝教授（順天堂大学）、峰松一夫副院長（国立循環器病研究センター）、山田正仁教授（金沢大学）。

紹介後、各理事からそれぞれ挨拶があった。

○議事

（1）専門医認定および資格喪失について

①専門医認定について

専門医認定委員会委員長の西澤理事から、第 38 回専門医試験の実施状況およびその結果について資料に基づき報告があった。6 月 16 日に一次試験が行われ 211 名の受験者のうち、171 名（81%）が合格（必修問題 55% 以上、295 題中正答率

50%以上の正答率)した。二次試験は7月14日に行われ、180名(去年の一次試験合格者9名を含む)が受験、最終的に166名が合格(全体の合格率75.4%)と判定された。専門医試験合格者を認定することについて審議が行われ承認された。承認後、合格者名簿が配布された。

その後の議論では、面接を担当した理事から、症例サマリーについて面接で質問をすれば本当に患者をみているかがわかるのでよい、受験者の中には施設基準を満たすがどの程度症例の経験があるか問題のある大学院生がいた、一部の受験者の針筋電図検査、神経筋病理の検査についての経験の少なさも問題であり、こうした受験者については提出したサマリートの事前のチェックが大切である、針筋電図検査の経験例について簡単なサマリーを提出させてはどうか、などの意見があった。西澤委員長からは、提出サマリーへの指導医のカウンターサインが残念ながら機能していない、とのことであった。各施設で内容のある研修プログラムを作っていくのが大切ではないかという意見もあり、中島施設認定委員会委員長からは、問題は認識しており、専門医制度機構の答申を受けて、施設認定委員会でも検討していきたいとのことであった。しかし、モデルカリキュラムをつくっているが、実際に対応できているかは不明である、一施設ではそのようなプログラムを達成するのは難しく、例えば地方会単位で筋電図ができる施設を集め、外の施設も活用していく姿勢も必要である、という意見もあった。また一旦専門医試験に受ければよいというわけではなく、継続的評価も必要である、施設としての評価も必要との意見も出された。筆記試験が通っても面接の口頭試験は何回も不合格になる人がおり筆記試験に合格している意味がない、という意見には、筆記試験は教科書を読めばよいのに対し、面接試験では実際に患者をみているかどうかという面を見ており、両方の試験は違う側面をみている、という反論があった。

②専門医資格喪失について

認定更新小委員会委員長の山本理事から、2011年の更新対象者が1814名であるが、そのうち単位不足の会員が28名あったこと、これを含めた資格停止中の71名の会員のうち、今年度単位不足の期間が3年を越える8人について、専門医資格喪失とすることについて資料に基づき説明があり承認された。これらの会員には何回も案内をしているが、中には継続の必要性を感じていない会員もいるとのことであった。専門医資格喪失の通知文書についても説明があった。

(2) 専門医認定クレジットについて

専門医認定委員会委員長の西澤理事から、今後の関連学会および生涯教育講演会(レクチャーとハンズオン)の単位のあり方について、委員会での審議結果を資料2に基づき説明があった。関連学会への参加クレジットは、今後総会2単位、地方会1単位に統一すること、生涯教育講演会等への参加クレジットはレクチャー、ハンズオンとも1時間当たり1単位とし、1日あたり7単位を上限とする、ことが報告され、承認された。

(3) 会費未納会員を退会とみなす手続きについて

神経学会事務局の池田事務長から、資料4に基づき会費未納の状況を報告したうえで、会費未納が6年目に入った会員については、会員細則第6条の規定に基づき7月末(事務処理は8月初旬)に退会とみなす処理を行うことについて説明があった。平成24年7月19日時点での会員数は8944名であるが、退会となる予定の人数が965名(うち住所不明者669名)いるため、7月の退会処理後の会員数は7979名と、8000名をわずかに割り込む見込みである。退会予定者には学術大会で発表するためだけに入会した人もいると思われる。しかし、新しい入会者もいるので8000名はすぐ回復すると思われるとのことであった。また平成24年7月末の時点で、会費未納に伴い資格を喪失する専門医が10名、単位不足により資格を喪失する専門医が8名、計18名いるとのことである。残ってもらえる方にはできるだけ残っていただきたいので、連絡のつく方には連絡してほしい旨要請があり、その場合7月末までには返事がほしいとのことであった。

(4) 地方会支部から代表理事への報告について

神経学会事務局の池田事務長から資料5に基づき、地方会細則第18条の規定により地方会支部から代表理事に運営状況等を報告する場合の手続きについて資料に基づき説明があった。毎年報告しなければならない事項として、支部役員名簿、当該年度の事業計画書、前年度の事業報告が、支部設立時および変更時報告しなければならない事項として、収支決算の概要、支部会則などがあげられた。毎年度の報告・収支決算の概要は、世話人会(または総会)で承認された後、一ヶ月以内に報告することとなる。報告書(地方会支部役員名簿・事業計画書・事業報告書・収支決算の概要)の様式についても説明があり承認された。

(5) 会員名簿を地方会支部に提供することについて

神経学会事務局の池田事務長から、資料6に基づき、定款で会員は必ず地方会支部に所属することになっていることに伴い、地方会支部が所属する会員を把握するため神経学会事務局から各地方会支部事務局に定期的に会員情報を提供する必要があり、その取扱い方法(要項案)について提案があった。この会員情報は地方会支部の事業に関わる場合のみ利用することがで

き、選挙や個人利用など目的以外に使用してはならないことが確認された。提供する会員情報は、氏名、連絡先、電話番号、FAX 番号、メールアドレス、現役職などであり、当分は手作業でエクセルデータを作成し、資料を2ヶ月に一度地方会に送る予定である。不都合な場合には修正するので、意見をいただきたいとのことであった。2ヶ月に一度という頻度はずいぶん高いが、もう少し頻度が少なくてもよいのではないか、という意見が出された。これに対して池田事務長からは、新入会・退会者の入れ替わりが多いので、2ヶ月毎という案にしたことが説明された。

(6) 各種委員会構成について

①各種委員会委員長について

水澤代表理事から、資料7、8に基づき7月で任期満了となる委員長の後任等、新たな委員会の委員長、副委員長の選任について報告があり承認された。学会収入の増加を図る財務小委員会については、阿部理事に委員長をお願いする予定で内諾を得ていること、専門医認定委員会は西澤理事に代わって中島理事が、施設認定委員会については、中島理事に代わって佐々木理事が委員長となることが提案され承認された。また、新たにできたメディカルスタッフ教育小委員会の委員長には、山田理事が就任することとなった。

②新委員会設置と委員会構成について

水澤代表理事から資料12に基づき、専門医認定委員会および新たに設置することが承認されている委員会（キャリア形成促進ワーキンググループ、会員制度・倫理規範委員会）、臨床医部会ワーキンググループの委員構成について報告があり承認された。専門医認定委員会では5名の委員が交代することが報告された。専門医試験について、面接員の家族が受験することがあるが、その場合は利益相反などについて特に考慮が必要かという質問がなされた。これまでも教室の若い医局員が受験する場合には同じ医局の先生が面接員にならないようにしており、家族について特別分けて考慮する必要はないということになった。キャリア形成促進ワーキングについては、委員会からの要望により理事会から宇川理事が参加することが説明され承認された。会員制度・倫理規範作成委員会は、倫理・審査委員会とどのように異なるかという質問に、水澤代表理事より、倫理・審査委員会と関係があるが、倫理・審査委員会はCOI関連業務等が多くなり、新委員会は会員制度以外すなわち倫理に関しては倫理規範を決めるのに特化した委員会で、倫理・審査委員会と協力して作業を進めてほしいとの説明があった。

(7) 第53回学術大会報告について

第53回日本神経学会学術大会大会長の鈴木則宏理事から資料13に基づき、2012年5月22日（火）より25日（金）に東京国際フォーラムにおいて行われた、第53回日本神経学会学術大会の運営状況について報告があり了承された。開催概要、演題数、公募シンポジウムを含む指定演題、第53回大会における新たな取り組み（NeuroCaféコーナーの設置、イブニングセミナーを東京国際フォーラム以外の会場でも行ったこと、ソーシャルイベントなど）に関して説明があった。

(8) 第54回学術大会準備状況について

第54回日本神経学会学術大会大会長の水澤代表理事から、当日配布資料に基づき、第54回日本神経学会学術大会の準備状況について報告があった。日本神経学会学術大会運営のあり方に関するまとめ、学術大会運営委員、年次学術大会学術委員の名簿の他、国際シンポジウム、企画シンポジウムを含めプログラムの概要についても説明があった。国際シンポジウムに関連して、海外の学会と日本神経学会の合同委員会を設置して企画しているのかという質問があり、水澤代表理事から、現在そのような委員会はないが、今後その方向で検討していきたいとのことであった。

(9) 役員選出について

①2013年度代議員選挙について

選挙管理委員会委員長の服部理事から、資料14に基づき、2013年度代議員選挙に伴う委員構成について説明があった。委員会は各地方ブロックの委員と総務幹事より構成する予定であること、支部からの役員を7月末までに推薦していただき、8月下旬より9月上旬までに第一回の委員会を開催すること、今後の選挙の実施に関するスケジュール案についても説明があり、承認された。また選挙結果の公表のあり方などについて理事会で審議してほしい旨要請があった。これについては公表したほうがよいという意見が多く、公表しない場合は、公表しないことについての、より説得力のある理由付けが必要との意見がだされた。大学卒は0票でも選挙に当選してしまう可能性もあるので、別枠にしたほうがよいのではないかとという意見もだされたが、前回の選挙の結果から考えると現行の制度で大きな問題はないということになった。2年ごとに選挙をおこなうことについては頻繁すぎるのではないかとという意見もだされた。これについて佐々木理事からは従来法人法の中では代議員という概念がなかったが、大きな法人に関しては代議員を認めることになったこと、その中では代議員の任期は必ず2年にしなければならないかはグレイゾーンであること、実務的に煩雑になりすぎるということであれば、将来見直しも必要になるかもしれないとのことであった。

(10) COI 自己申告書の提出について

水澤代表理事から、COI 自己申告は現在暫定的な取扱いとなっており、昨年提出した COI 自己申告は、状況に変更があった場合のみ提出することになっているが、今年度は理事・監事および新任の各種委員会委員について提出を求めることとするので、協力してほしい旨要請があった。提出依頼は、後日事務局から送付する予定である。

(11) 平成 24 年度財務状況等について

- ①財務委員会委員長の辻（省）理事から、資料 15 に基づき平成 24 年 6 月末の収支状況について報告があった。会費収入は順調に推移しているが、消費税が 10% に上がった場合、収益分の増加を差し引いても、1800 万円の支出増加が予想されること、学会全体の収支もぎりぎり、多少の赤字もありうるということが説明された。学会としての活動を萎縮させないために、財務改善の努力が必要であることが説明された。学術大会の PCO を 2 年契約にするなど、経費節減の努力もしているが、これだけでは厳しく、収入を増やす努力が必要であり、とくに教育事業についてはよく検討しなければならないことが述べられた。WCN の招致活動の予算が増加している一方、臨床神経学がオンライン化するため、機関紙刊行費の分は大幅に節約できる見込みであることが説明された。
- ②神経学会事務局の池田事務長から、社員総会で代議員から「費用が高いのではないかと指摘があった手数料の詳細について、資料に基づき報告があった。費用は郵便・銀行振込手数料、会費納入代行手数料、定期清掃・廃棄物処理・クリーニング等の 3 つからなり、全部で 180 万円程度になること、前 2 つの手数料の内容についても説明があり承認された。経費節減のため会員に会費払い込み手数料を負担してもらうことも考えられるが、納入率が低下する危惧もあることなどが説明された。審議の結果、今のところは現在のやり方を継続することとなった。
- ③回収資料（当日配布・回収）に基づき、水澤代表理事から、丹水社との契約に関する経緯、また債権が回収できなくなった経緯について説明があった。葛原監事（契約当時理事長）からは、丹水社との契約は 1960 年代からの慣習でやっていたが、その後理事会として契約をおこなったこと、しかし当時は会員数が 900 名程度にすぎなかったのに対して会員が 10 倍近くになった近年でも同じ契約で継続していた上、理事会として契約やお金の管理に関する情報が把握できていなかったことに問題があったとのことであった。水澤代表理事からは、問題となるような情報があるときにはその都度遅滞なく対応してきたが、会計の状況が年度末にしか把握できなかったという状況であったことが結果的に債権の増大につながった、との説明があった。また丹水社は当時日本医師会等とも契約しており、一度は債権の一部返済もおこなっているため、倒産がすぐに予想される状況ではなく、できる限りの回収をめざしたということが説明され、了承された。関連して、会計士にはどのくらいの謝礼を支払っているのか、会計処理の状況把握はどの程度の頻度でしてもらっているのか、という質問がなされた。これに対しては、池田事務長より謝礼は月額 5 万円、決算に 25 万円程度を支払っていること、また毎月の会計の帳簿記載は事務局で行っているが、伝票の書き方などについて会計事務所に助言をもらっていることが回答された。これについては相場としてはその程度かもしれないが、もう少し経費を安くできるかどうか、他の会計事務所の相場もみていく必要があるということになった。池田事務長から、今回の経緯については、実務上仕方ない面もあったこと、またアスト会計事務所は契約上納税などの業務にかかわっており監査業務は委託していないこと、もし会計の監査について依頼するとすれば、別の会社に頼む必要があること、などが説明された。

(12) 各種委員会報告

①診療向上委員会報告

診療向上委員会の内山委員長から、診療向上委員会に新委員として内保連 DPC 検討委員会の長谷川泰弘聖マリアンナ医科大学教授、内保連疑義解釈委員会の黒岩義之先生の後任として平田幸一独協医科大学教授が加わったことが報告された。平成 24 年診療報酬改定の反省と平成 26 年度診療報酬改定に向けての準備を行っていること、神経学的チャートの運用、平成 24 年診療報酬改定の問題点、平成 26 年度診療報酬改定に向けての希望などについて日本神経学会会員にアンケートを予定していること、平成 26 年度診療報酬改定に向けて神経関連委員会の意見収集を行っていること、平成 24 年診療報酬改定における超重症児（者）・準超重症児（者）入院加算に関する取り扱いの状況について報告があった。北里大学の荻野代議員が中心となり資料をまとめ、水澤代表理事、内山委員長とともに厚生労働省に陳情を行った結果、入院加算の留意事項について、「平成 24 年 3 月 31 日時点で 30 日当該加算が確定していた患者であって」という文言が消されたこと（資料 16, P98 の下線部）、しかし「脳卒中の後遺症の患者及び認知症の患者については、平成 24 年 3 月 31 日時点で 30 日以上継続して当該加算を算定している患者に限る」という文言が加わったことが説明された。

②施設認定委員会報告

施設認定委員会委員長の中島理事から、平成 23 年 10 月 1 日付で仮認定を申請していた 4 施設の仮認定後の実績報告書の評価について、施設区分にみあった実績をあげていると判断し、平成 23 年 10 月 1 日に遡って正式な施設認定をする予定であることについて報告があり、承認された。

③ IT 化推進委員会報告

IT 化推進委員会委員長の阿部理事が欠席のため、水澤代表理事より IT 化推進委員会の報告がなされた。災害ネットワーク構築の準備状況・組織図について、資料 19 に基づいて報告があった。厚生労働省からの 300 万円の予算はまだおりていないものの、委員会としては呼吸器をつけた状態の神経難病患者の受け入れが可能な施設のリストをつくるなど、できる準備から実行していったほしいとの要望が述べられた。予算については、災害時医療支援プログラムの準備等に当てる予定で、維持の経費が大きくなりすぎないように、簡便で日ごろからデータを入れられるようなシステムを目指していくとのことであった。急性期の広域搬送に関しては、神経内科疾患に特異的な状況があり、呼吸器をつけた神経疾患の患者をヘリで運ぶなど、DMAT との連携が必要な場面もあるため、地方組織ごとの指揮系統をはっきりさせるとともに、広域搬送のシステムにもつなげていくことが重要で、学会として問題点を共有する必要があるとの意見も出された。組織図に関して、九州地区、関東甲信越地区の一部の委員については神経難病の診療に中心的是かかわっていないので、難病についてより中心的な役割を果たす人を選んでほしいとの意見が出された。これについては、阿部委員長と相談して決めていただくこととなった。他学会の災害に対する対応を見ると、必ず学会理事には知らせる体制をとっているの、本学会でも災害時には理事にも責任をもって知らせる体制を作ることが望ましい、との意見がだされた。北海道地区については、もう 2 施設ほどを入れたいとの意見もあった。各方面に意見を聞き、組織図を修正していただくことになった。

④ WCN 招致委員会報告について

実際は理事会の最後に討議がなされた。まず、WCN 招致委員会委員長の高橋理事から、AOCN での招致活動や今後の招致活動について、資料 24、及び当日配布資料（国際対応委員会追加資料）に基づき、これまでの招致の経緯について説明があった。また WCN 招致活動費用について、bid book を用意したり、メルボルンで行われた AOCN にブースを出したりした関係で当初予算より 100 万円程度余計に費用がかかったことが報告された。6 月 14 日に水澤代表理事宛に WFN 事務局より guidelines for the site selection of the world congress of neurology (2017 年 version) がメールで届いたことが報告された。このガイドラインでは 6 日間の会期で会場費を 30 万ドル以内におさえなくてはならず(その後 50 万ドルに上方修正された)、それ以上の負担は host country が負担すること、利益については大会主催会社である Kenes 6: Host country 4 の比率で分配すること、会場の広さの基準、catering space などについても厳しい基準がつけられていることが報告された。必要な費用を捻出するため寄付金を募る努力も必要であるが、会場費等の費用の負担をどうするか検討が必要であり、また締め切りは予想より早く、8 月 15 日である。韓国、中国・香港などの出方にもよるが、日本としてはすでに用意した bid book は提出するにしても、9 月 9 日に Stockholm で行われる WFN の総会までに立候補するかどうか判断が必要かもしれないとの考えが述べられた。このようなガイドラインが急に送られてきたのは Kenes の判断によるのかもしれないが、このような契約が通るなら日本は無理に出る必要がないという意見もあった一方で、会場費の差額を神経学会で負担すれば問題無く、国際学会の運営経験者からはこの程度の収益は十分出せる、経費の問題で立候補をやめる必要はないという意見も多かった。

ウィーンの WCN で行われる予定の WFN の vice president の改選に関して、神経学会として梶理事を応援することが提案され、了承された。

⑤ 生涯教育小委員会報告

卒後・生涯教育小委員会委員長の吉良理事から、今年 5 月に開催された生涯教育小委員会の審議状況について、資料 22 に基づき報告があった。教育委員会の改組がなされ、開業医の小委員会委員候補者を委員から推薦していただくことが決まったこと、教育コンテンツ配信事業について教育リソース事業小委員会が大学病院医療情報ネットワーク (UMIN) を活用し、教育コンテンツの配信事業を実施すること、認定単位のクレジットをとる代わりに受講料を採る案が検討され、認定単位を 1 時間で 1 点とれるようにして、受講料を 1000 円とるようにする案がだされていることが報告された。また生涯教育セミナー、卒後教育セミナー、専門コースのハンズオンなどで、神経学会での教育事業に大きく貢献した先生を一定の基準で Excellent teacher として表彰することが提案され承認された。また教育委員会、各小委員会の名簿一覧についても資料に基づき説明があり、了承された。

⑥ 教育委員会報告

教育委員会委員長の吉良理事から、教育委員会のもとにメディカルスタッフ教育小委員会を設置すること、および今年 5 月に開催された教育委員会の審議状況について、資料 21、22 に基づき報告があった。

⑦ ガイドライン統括委員会

ガイドライン統括委員会委員長の辻貞俊名誉会員が欠席のため、水澤代表理事より重症筋無力症診療ガイドライン作成委員会のメンバーについて、副委員長として長崎大学第一内科の本村正勝代議員、委員として総合花巻病院の檜沢公明先生が就任したことが報告された。

(13) 日本脳科学関連学会連合発足について

水澤代表理事から、日本脳科学関連学会連合設立に関する第 1 回目の評議員会が 7 月 1 日に開催され、設立の承認など決定

事項等について、資料 24 に基づき報告があった。脳科学関連学会連合の神経学会推薦の評議員として、祖父江理事、宇川理事が就任した。学会連合副代表に、水澤評議員が日本神経化学会の井上和秀評議員とともに就任した。学会連合運営委員には、日本精神神経学会の武田雅俊評議員、日本脳神経外科学会の齊藤延人評議員もはいており、神経内科、脳外科、精神科で臨床部会を作る方向で考えていることが報告された。

(14) 日本内科学会将来計画検討ワーキンググループ委員推薦について

水澤代表理事から、日本内科学会が設置を予定している将来計画検討ワーキンググループから委員候補者を推薦して欲しい旨要請があったことを、資料 26 に基づき報告があった。推薦対象者としては①神経学会会員で 40 歳代であること、②内科学会会員であること、③自分の専門分野だけでなく、幅広い視野をもっていることが条件である。任期は 3 年間で、内科学会提出期限は 8 月 20 日である。

(15) 日本医学会の組織・運営に関する構想についての意見募集について

「日本医学会は日本医師会を医学の面で支持することに異論はないが、組織としては別個の法人として独立するべきではないか」という提言に基づき、日本医学会から同会の組織・運営に関する構想案に対する意見募集があった旨、水澤代表理事から、資料 25 に基づき報告があった。日本医学会への提出期限は 8 月 7 日となっているため、意見がある場合は、今月末までに学会事務局に提出するよう要請があった。

(16) その他

①山本理事の提案

山本理事から提案があった件について水澤代表理事より説明があり、その後審議がなされた。①学会運営マニュアル、学術大会運営マニュアルを作成したほうがよいのではないかという提案については、既にその準備が始まっていることが説明された。②会計監査についていくつかの会計士で費用の比較を行い、経費を安くできるかどうか検討することが提案され、了承された。③専門医の資格についても検討することが提案され、認定委員会で審議を継続することとなった。④各委員会の mission と goal をはっきりさせることが必要であるという提案については、各委員会でそれぞれの目的について検討することになった。⑤学会賞については、若手だけでなく、すぐれた業績について功績のあった senior の人についても考えたほうがよいのではないか、という提案もなされた。これについては、教育・診療部門ではすでにそのような賞があるが、研究部門についてはあり方委員会で検討することになった。

②次回理事会の日程調整について

この時点で、すでに退席した理事もいたため、11 月または 12 月初旬および 1 月または 2 月の理事会の日程調整について話し合われたが、今後引き続き日程の調整を行う予定となった。2 月の理事会については 2 月 1 日、22 日などなら可能かもしれないが、他の日程は入試などが重なり無理な日程もあるとのことであった。

③事務長人事について

水澤代表理事から、来年で定年（任期 5 年）迎える池田事務長の後任の事務長人事についてできれば任期を延長としたい旨提案があり、事務長退席の上、審議がなされた。現在学会運営が非常に安定していることや、事務局主導での学術大会の運営が軌道にのるまでの間やっていたのがよいのではないか、という意見が多数だった。国立大学では 65 歳までは 1 年契約で延長ができることから、一年ごとに契約更新するのがよいのではないかという意見が出された。審議の結果、池田事務長の任期を一年延長することが財務委員長も含め了承された。

編集委員会よりの謝辞

次に申し上げます査読者の先生方のご協力を得て、順調に査読・編集も進んでおります。
ここに、本年度査読をお願いいたしました先生方のお名前をあげ、謝意を表します。

平成 24 年度 査読担当者 (2011 年 12 月 1 日～2012 年 11 月 30 日依頼, 編集委員以外)

荒木 信夫	有村 公良	飯塚 高浩	池田 昭夫	池田 修一
池田 佳生	石川 欽也	犬塚 貴	今井 尚志	今村 徹
宇川 義一	宇宿功市郎	内山真一郎	梅原 藤雄	大熊 泰之
大概 美佳	大矢 寧	尾方 克久	岡 伸幸	岡本 幸市
岡田 靖	越智 博文	小野寺 理	梶 龍兒	柏原 健一
加藤 丈夫	亀井 聡	川井 充	北川 一夫	北川 泰久
吉良 潤一	楠 進	國本 雅也	熊本 俊秀	栗山 勝
幸原 伸夫	郡山 達男	後藤 順	古和 久典	近藤 誉之
齋木 英資	佐々木秀直	嶋崎 晴雄	清水 俊夫	鈴木 匡子
鈴木 重明	砂田 芳秀	園生 雅弘	高尾 昌樹	高橋 慎一
竹島多賀夫	田中 恵子	田中 正美	棚橋 紀夫	坪井 義夫
寺山 靖夫	豊島 至	豊田 一則	中川 正法	中島 一郎
中島 孝	永田栄一郎	中野 智	滑川 道人	成富 博章
西澤 正豊	西野 一三	橋本洋一郎	長谷川一子	長谷川泰弘
服部 信孝	馬場 康彦	濱田 潤一	平田 幸一	平山 和美
平山 幹生	廣瀬源二郎	福井 俊哉	福武 敏夫	寶金 清博
星野 晴彦	堀内 正浩	松井 真	松原 四郎	松本 昌泰
宮嶋 裕明	水澤 英洋	峰松 一夫	村井 弘之	村松 和浩
森 壱	矢坂 正弘	矢部 一郎	山田 正仁	山本 悌司
山脇 健盛	横山 和正	吉田 寛	吉田 眞理	渡辺 宏久

(注 敬称略、五十音順で名前を記載)

平成 24 年臨床神経学電子ジャーナル全文 PDF 閲覧回数年間トップ 30

(集計期間 平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 10 月 31 日)

※ 51 巻, 52 巻掲載の論文は, 会員限定公開中もしくは一般公開後 1 年を経過していないため, 集計期間中における閲覧回数は少なくなっています.

	掲載号	種別	著者名	タイトル	閲覧回数
1	49 巻 6 号	総 説	高草木 薫	大脳基底核による運動の制御	15,498
2	49 巻 2 号	総 説	鈴木 匡子	高次脳機能障害の診方	8,141
3	49 巻 4 号	総 説	安田 斎	糖尿病性ニューロパチーの病態と治療	8,066
4	48 巻 11 号	49 総会 SY	池田 学	前頭側頭型認知症の症候学	7,382
5	48 巻 11 号	49 総会 SY	飯塚 高浩	抗 NMDA 受容体脳炎の臨床と病態	7,002
6	48 巻 11 号	49 総会教育	大槻 美佳	失語症の診療—最近の進歩—	4,386
7	50 巻 6 号	総 説	田中 恵子	傍腫瘍性神経症候群と抗神経抗体	3,925
8	49 巻 11 号	50 総会教育	飯塚 高浩	抗 NMDA 受容体抗体脳炎の臨床と病態	3,855
9	48 巻 7 号	総 説	東海林幹夫	認知症の臨床と病態	3,641
10	50 巻 11 号	51 総会 SY	武田 英孝	BAD をどう治療するか	3,253
11	48 巻 5 号	総 説	木村 和美	超急性期脳梗塞に対する rt-PA 静注療法	3,247
12	50 巻 11 号	51 総会 SY	山本 康正	Branch atheromatous disease (BAD) の概念とその臨床的意義	3,227
13	48 巻 11 号	49 総会教育	才藤 栄一	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	3,149
14	49 巻 11 号	50 総会教育	辻 貞俊	新しいてんかん分類と抗てんかん薬の使い方	3,070
15	48 巻 1 号	植林賞	織茂 智之	パーキンソン病およびレビー小体型認知症の早期診断法の確立とその病態機序に関する研究	2,861
16	50 巻 4 号	総 説	桑原 聡	難治性末梢神経障害の治療の進歩と展望: 免疫性ニューロパチーと Crow-Fukase 症候群を中心に	2,763
17	49 巻 6 号	短 報	小川 朋子	経胃瘻的空腸栄養および内視鏡的小腸瘻にて栄養管理をおこなった多系統萎縮症の 1 例	2,595
18	48 巻 3 号	原 著	橋本 里奈	HIV 脳症 5 例の臨床的特徴と経過	2,476
19	50 巻 9 号	症例報告	岩崎 靖	脳アミロイドアンギオパチーによる多発性皮質微小梗塞が認知症の進行に影響したと考えられる 1 剖検例	2,441
20	48 巻 11 号	49 総会 SY	高橋 幸利	急性辺縁系脳炎・脳症と NMDA 型グルタミン酸受容体	2,435

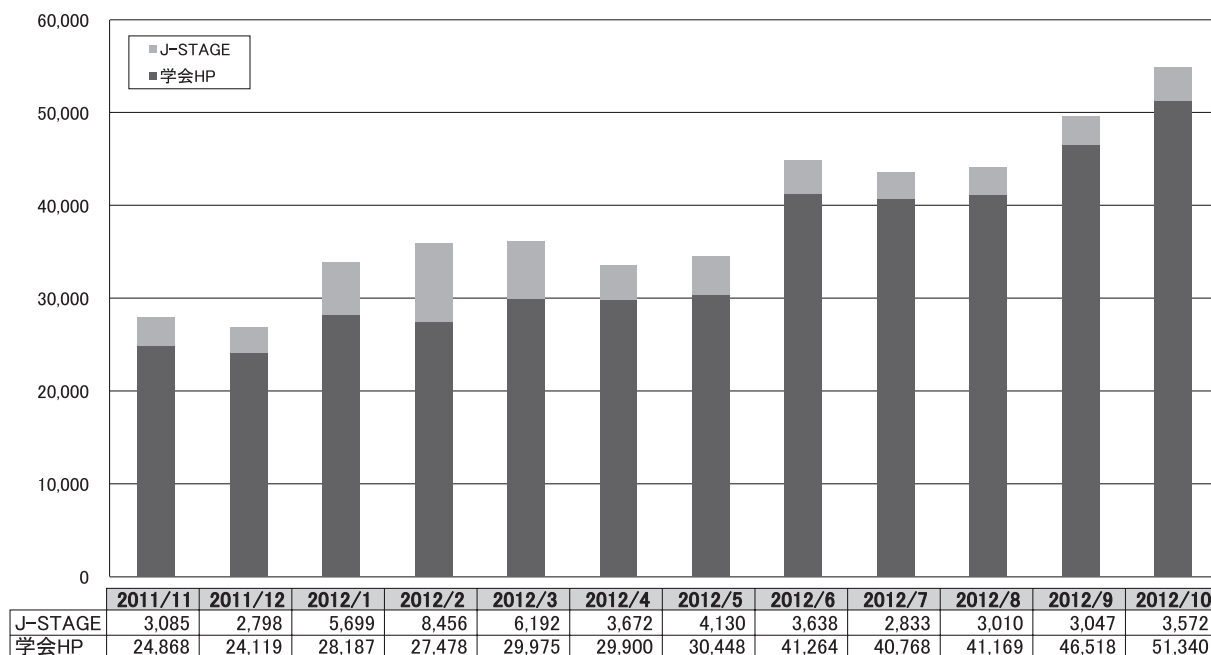
	掲載号	種別	著者名	タイトル	閲覧回数
21	50 巻 8 号	総 説	富本 秀和	皮質下血管性認知症の診断と治療	2,410
22	48 巻 8 号	総 説	辻 貞俊	てんかんの治療	2,407
23	48 巻 9 号	総 説	葛原 茂樹	ALS 研究の最近の進歩：ALS と TDP-43	2,364
24	48 巻 11 号	49 総会企画	梶 龍児	ジストニアの診断と治療—病態生理的アプローチ	2,356
25	49 巻 7 号	総 説	三苦 博	小脳症候の病態生理	2,287
26	48 巻 11 号	49 総会教育	森 悦朗	痴呆性神経疾患の画像診断	2,278
27	48 巻 11 号	49 総会 SY	森 壱	拡散テンソル画像	2,132
28	48 巻 4 号	短 報	田村 麻子	脂肪抑制 MRI T ₂ 強調画像で病巣側に“tram-track” sign と “donut configuration” がみられた Tolosa-Hunt 症候群	2,124
29	48 巻 8 号	原 著	末長 敏彦	脳卒中急性期に合併する偽痛風の検討	2,036
30	49 巻 10 号	症例報告	松本 禎之	MRI-T ₂ * 強調画像が早期診断に有用であった直静脈洞血栓症の 1 例	2,033

※責任著書の所在が明らかでない場合は一番初めの方を抜粋しております。

J-STAGE の集計期間は、2012 年 1 月 1 日～2012 年 10 月 31 日です。

アクセス数

電子ジャーナル全文PDFアクセス件数(2011年11月～2012年10月)



※ 年間総閲覧回数()は、2011年の閲覧回数

J-STAGE 50,132回 (19,218回)

学会HP 416,034回 (241,966回)